

おわりに

上関大橋では、通常の供用状態下において、鉛直 PC 鋼棒の破断が原因となり、A2 橋台部において主桁端部が浮き上がったことにより路面に約 20cm の段差が生じ、事故が発生した。同じような事故を繰り返さないよう、本報告の趣旨を踏まえ、山口県が直ちに本橋の本復旧対策を実施するとともに、同じ構造を持つ橋梁について補強対策等を講じることを期待する。

なお、本橋の構造や維持管理の反省は、一般的な新設橋や既設橋にも当てはまるので、他の管理者に対しても広く知見を共有すべきである。